

## 生物介在療法学特論(二) (2単位)

担当者氏名 浅野房世

### ◆学習・教育目標

人間と植物の関係を療法として活用した歴史は古い。なぜ人は、植物から癒しを受けられるのか？あるいはそれを療法として、活用するという行為は、何なのか？もっとも必要とされる植物介在療法のスキルとは何なのか？これらのことを踏まえながら、植物を療法的に用いることの人間学的意味や、どのような治療構造のもとにおこなわれるべきかを学ぶ。

### ◆取り扱う領域（キーワードで記載）

人間とヒト                      ヒトの発達                      情感と情操

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらい または準備し ておく事項
1	ガイダンス		
2	植物介在療法における	ヒトから人へ発展	人間と動物の 違いを踏ま え、人間が人 間らしく生き るための植物 介在療法をま なぶ
3	人間の進化と発展 (1)	歩行は何を与えたか？	
4	人間の進化と発展 (2)	咽頭の構造と言葉	
5	人間の進化と発展 (3)	意思を伝える発達	
6	人間の進化と発展 (4)	自己意識の芽生え	
7	癒しから療法への転換 (1)	他者を癒す意識	
8	癒しから療法への転換 (2)	人間の癒しと動物の癒し	
9	癒しから療法への転換 (3)	癒しはいつから始まるか	
10	癒しから療法への転換 (4)	植物による癒しとはなにか	
11	治療構造 (1)	植物を活用する治療とはなにか	
12	治療構造 (2)	必要な治療構造	
13	治療構造 (3)	治療構造と環境の関係	
14	治療構造 (4)	患者を取り巻く様々な人間 (人の治療構造)	
15	とりまとめ	園芸などを趣味として扱うのではなく、療法として扱う 場合の留意点 (チーム医療での植物介在療法は、どうあ るべきか)	

### ◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）  
生きられる癒しの風景（人文書院）

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）  
風景論、癒し、進化などの関係書籍

### ◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート

### ◆その他受講上の注意事項

学部での植物介在療法に関する科目を予習しておくこと。

---